

文書館だより

TEL027(221)2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp>

第57号

平成28年9月



群馬県鳥瞰図（部分）
（縦19cm・横103cm）
群馬県立文書館所蔵（B891226）

自由に羽ばたく鳥のように、上空から見下ろした視点で描かれた図は「鳥瞰図（ちようかんず）」と呼ばれています。

上の資料は、昭和11年（1936）に、群馬県勝地協会が作成した観光案内図「勝地群馬」に描かれた群馬県鳥瞰図の一部分です。

鳥瞰図を描いたのは、大正から昭和期にかけて活躍し、「大正の広重（ひろしげ）」として名高い絵師、吉田初三郎です。「初三郎式鳥瞰図」と呼ばれる吉田の作品は、中心となる箇所を細かく描写し、周辺部はU字型を基本に大きくテフォルムを加えており、本来であれば見ることでできない遠景も書き込むなどの大胆な構図が特徴的です。彩色も美しく、地勢の全容も分かりやすく描かれている「初三郎式鳥瞰図」は、交通網の発達や観光の広がりの中で、人々の人気を集めました。

この「勝地群馬」の現物は、小さく折りたたまれて作られており、裏面には県の沿革や県内各名所、著名神社仏閣の詳しい概要や案内が解説されています。観光案内図が作成された当時においても、観光事業は県行政の重要な施策であり、群馬県が古くから観光県として景勝地の保護・開発に取り組んでいた様子が分かります。

当館では、吉田初三郎の描いた鳥瞰図として、この群馬県鳥瞰図の他に、沼田市・伊勢崎市・桐生市の観光案内図を保存しています。現在の郷土の姿と対比させ、「今も残っているもの」、または「今はなくなったもの」を探してみるのも面白いのではないのでしょうか。

平成27年度新規公開文書展
「藤岡市三波川 飯塚家文書と安中市五料 中島家文書」の開催報告

平成28年3月5日から同年7月3日まで、標記の展示を行いました。新規公開文書展は、当館が各年度ごとに新たに閲覧公開した文書の中から、特徴ある史料を選び展示するものです。今回は、県重要文化財に指定されている飯塚家文書と、平成27年度に二千四百点余りを第2次公開した中島徳造家文書を取り上げました。

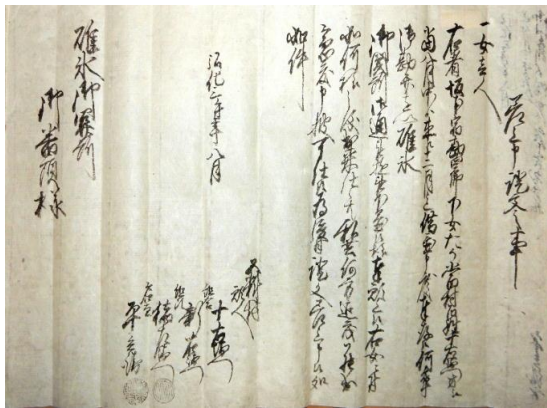
内容は、①飯塚家文書の戦国期文書、②中島徳造家の近世文書とし、それぞれ8点、計16点を選び展示しました。①は「北条家朱印状」（天文21年）、「武田勝頼判物」（年次不詳）、「長井政実判物」（天正10年力）、「猪俣邦憲判物」（天正15年）など、②は「往来一札之事（五料村伊之吉、神社仏閣拝礼に付聞所通り証文）」、「字中木 火元要右衛門家並びに類焼家屋簷絵図」（安政3年）、「御請一札之事（安中絹市議定請印証文）」（安政3年）、などの文書を展示し、各文書に釈文・解説文を添えました。

開催期間中の観覧（来館）者は、計1001人でした。これまでの展示と同様に前橋市、高崎市からの来館者が多数を占めました（全体の57.6%）が、先のロビー展示口「真田氏と吾妻の諸街

道」と比較すると、両市以外の地域からの来館者の割合が11%増加しました。伊勢崎市からの来館者が4.3%増加し、中島家がある安中市、太田市、桐生市や

県外からの来館者も増加しました。

来館者アンケートによると、展示全体については「見やすい」が100%、展示内容については「わかりやすい」63.6%、「むずかしい」27.3%、「その他」9.1%でした。今後も皆様に、当館収蔵史料について、より興味、関心を持っていただけるような展示の企画、開催に努めていきたいと思えます。



差上申証文之事（弘化三年八月）
中島徳造家文書（P8909 No.3169）

平成28年度テーマ展示1
「絵で見る近代のぐんま」の開催

当館では、7月23日（土）から10月9日（日）までの予定で、標記のテーマ展示を行っています。

今回の展示では、文字で書かれた史料だけではなく、視覚的に情報を読み取ることができる「見た目に分かりやすい絵図」に着目して、当館収蔵史料を展示しています。

描写や色合いに工夫が施された絵図は、非常にたくさんさんの情報が詰められており、描かれた当時の社会情勢や生活・暮らしの様子など、多様な情報を「目」から捉えることができます。

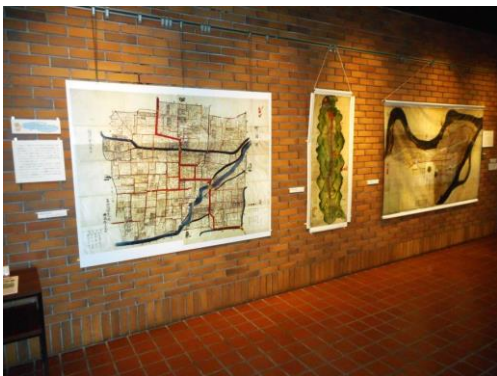
実際の展示史料は、来館される方々に、より身近な郷土「ぐんま」の姿に接していただけるように、時代設定を近代（明治期～昭和期）に絞りました。その展示内容は大きく二つに分かれています。

一つめは、『王申地券地引絵図』から見る近代ぐんまの姿は？』です。明治初期に村ごとに作成された絵図「王申地券地引絵図」は、山、川、寺社などが色分けされて描かれている他、地番や土地の広さ、所有者なども記されています。土地の証書である「地券」を発行するために作成された絵図ですが、今では明治初期の県内の様子を知る貴重な史料とな

っています。

二つめは、『鳥瞰図』から見る近代ぐんまの姿は？』です。自由に羽ばたく鳥のように、上空から見下ろした視点で昭和期に描かれた鳥瞰図で、今回の展示では、観光案内図として吉田初三郎によって描かれたものを展示しています。鳥瞰図は、当時の県内の名所、史跡、交通などの様子を中心に描かれており、群馬県全体、沼田市、桐生市、伊勢崎市のそれぞれの都市を、立体的に眺めることができます。

ぜひみなさんの「目」で、描かれた「近代のぐんま」から、当時の様子を垣間見てください。



文書館ロビーにてパネル展示

教育普及活動（ぐんま史料講座）

郷土群馬に関連する様々な史料を活用・紹介する「第1回ぐんま史料講座」を7月30日に当館で開催しました。60余名の方々が参加した今回の史料講座では、講師に関戸明子氏（群馬大学教育学部教授）をお迎えし、「近代群馬の絵図に描かれた世界を楽しむ」と題してお話をいただきました。

講座では、群馬県の鳥瞰図を中心に、大正・昭和期の観光ブームと関連させて近代群馬の姿を読み解いていきました。豊富な史料を提示し、県内の同一箇所を複数の史料を用いて比較していくなど、詳細でありながらも大変わかりやすい解説をしていただきました。

参加した方々からは、「地元群馬の再発見ができた。」「ていねいな説明でよくわかった。」「現在の地図とは違った描き方が、おもしろかった。」「などのご意見をいただき、郷土に対する興味関心の高まりをもつて終えることができました。



世界を楽しむ

学校連携（校外授業・職場体験）

●前橋市立第五中学校 授業協力の報告

前橋市立第五中学校第1学年の生徒160名（5クラス）が、7月12日に社会科（歴史分野）の授業の一環として来館しました。授業協力の内容としては、二子山古墳の見学と解説や、当館収蔵資料の見学と解説、複製史料を活用した体験学習があります。体験学習では、1702年に作成された約5m×5mと大型な群馬県全図である「元禄上野国絵図」の原寸大の複製品（64分割された特殊マット）を活用しました。生徒たちは、特殊マットを敷き詰めて群馬県の形を完成させたり、マットの上に乗って当時の様子を垣間見たりと、友達と協力しながら積極的に参加していました。

●前橋市立木瀬中学校 職場体験

9月6日（火）から8日（木）までの3日間、前橋市立木瀬中学校の2年生4名が、キャリア教育の一環である職場体験学習を文書館で行いました。貴重な公文書や古文書に直に触れながらの業務を体験するとともに、職員の間柄や仕事ぶりも見てもらえたようです。生徒からは「役割を果たし、人のために動くということが働くということなのかと思いました。」「すべてのことが新しく自分を成長させて

くれました。」「などの感想が寄せられました。

インターシップ・視察（前橋国際大・駒澤大）

●インターシップ

県で大学生等を2週間受け入れるインターシップ・プログラムの一環として、8月26日（金）に10名の学生が文書館での半日実習に臨みました。公文書館法に沿った館の使命を理解していたくとともに、県庁内執務とはひと味違う公務に触れていただきました。

●視察

6月8日（水）には前橋国際大学心理・人間文化コースの野口ゼミから、また9月1日（木）には駒澤大学文学部歴史学科の熊本ゼミから、それぞれ学生、教員が文書館の見学に訪れました。野口ゼミでは群馬県を中心とした歴史を、ま



た熊本ゼミでは「記録史料学」等をテーマとしていることから、それぞれの興味、関心に沿った案内をさせていただきました。

運営協議会・文書調査員会議の開催と教育長の視察

●運営協議会

7月29日（金）に第62回群馬県立文書館運営協議会を開催しました。学識経験者や学校教育関係者の委員の皆様からご意見を伺うために毎年開催しているものです。委員からは、講座開催や各種広報の充実、専門的人材育成の重要性等について指摘がありました。文書館では協議の内容を踏まえ、県民に開かれた文書館としてより一層発展できるように取り組んでいく所存です。

●文書調査員会議

5月23日（月）に平成28年度文書調査員会議を開催しました。県内各地に散在する古文書や記録の散逸を防ぐために文書館が18名を委嘱した文書調査員の方々が集まり、地域での調査方法の確認や情報交換を行いました。

●教育長の視察

4月22日（金）に笠原寛県教育長が来館されました。閲覧室、書庫、展示室など館内を視察されたほか、国指定重要文化財の「壬申地券地引絵図」、県指定重要文化財の「元禄上野国絵図」「飯塚家文書」などの関係資料をご覧になりました。

古文書整理つぼれ話

真田氏と吾妻の諸将
—沼田城攻防をめぐる—資料から—

横尾八幡山城は、現在の中之条町大字横尾にあった山城です。中之条から沼田への街道（真田道）と越後への街道が交錯する要衝にあり、戦国期には真田氏の沼田領防衛の拠点となりました。

天正16年（1588）4月、真田信幸から「八幡山番帳」と呼ばれる文書が発給されました。宛所は、富澤豊前守・狩野志摩守・同右馬助・折田軍兵衛の4名で、吾妻地域の地侍と思われれます。

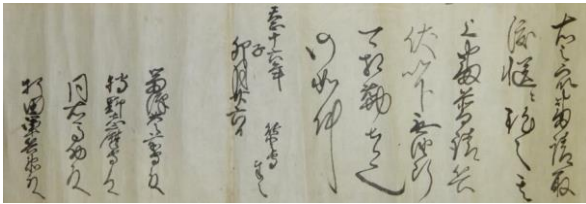
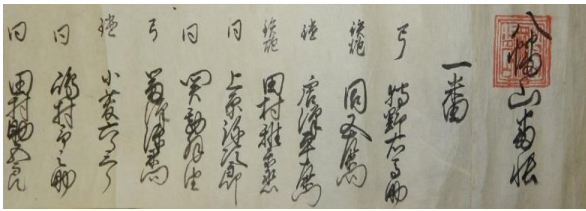
この「番帳」が発給されたほぼ同時期、北条氏は、名胡桃城攻撃の足がかりとして利根川西岸に権現山城（高山村）を築き、閏5月には沼田城の真田氏と戦火を交えています。信幸は地侍を番衆（交替で警備等に当たる者）として2番（1番31名、2番32名、計63名）に編成し、交替で八幡山城の防備に当たらせました。武器の構成を見ると、鎗32名、鉄砲29名、弓2名であり、鉄砲伝来から45年を経て、戦法の中心が鉄砲に移った様子が窺えます。

「八幡山番帳」の原本は残念ながら確認されていませんが、写は、当館で公開している東吾妻町の富澤家（寄託）をはじめ、中之条町の田村家、折田家、関家

などに伝わっています（『群馬県史』は田村家文書を収録。資7 No.3511）。これら「番帳」の写を所有する家の名は、番衆の中に見られることから、「番帳」が書写され番衆の間で共有されたことが推察されます。



真田信幸の朱印（印影）



吾妻郡東吾妻町原町・富澤久幸家文書
(P0905 No.631)

新たに収集した

古文書

◎上松徹氏収集文書

上松氏が収集した「天明三年瀧新田村御年貢可納割付之事」、「上意（吾妻郡原岩本村）」の計2点。
（寄託）

新たに公開した

古文書

◎前橋市・矢田町自治会文書

旧那波郡（佐波郡）上陽村大字西善中組の区長引継文書。近世く明治期文書。
362点（P9009）

◎前橋市・田代よし子家文書

田代家に伝来した文政4年「上大島村絵図」（マイクロフィルム閲覧）。
8点（P9309）

◎北群馬郡子持村・阿久澤順一家文書

紙焼き製本で公開している同文書群のうち、正徳4年「横堀村地内絵図」、「吹屋村絵図」の2点（マイクロフィルム閲覧）。
2点（P9406）

◎前橋市・八木健次家文書（第2次）

追加寄贈を受けた近世史料。元文2年と思われる「御広間御條目」、延享元年「於姫路被 仰渡候覚帳面写」などを含む。
6点（P09702）

◎前橋市・篠田賢一家文書

文政4年「上野国群馬郡天川原村分間絵図」（マイクロフィルム閲覧）、天川原村の享保13年「御水帳写御案内帳」などを含む。
5点（P0009）

◎沼田市・黒岩英夫家文書（第6次）

近世く近現代の繭・蛹など売買に関する経営資料が中心。
2097点（P8311）

◎前橋市・長見寺文書

修験道関係資料及び群馬郡大友村に関する文書群。典籍や写本のほか、慶安3年・万治3年の大友村年貢割付状、戸長役場作成の字別地引絵図帳を含む。
1684点（P0006）

◎長谷康夫氏収集文書

長谷氏が収集した、碓氷郡峠町の戸長役場文書、佐位郡五目牛村関係文書、碓氷社・甘楽社などの組合製糸関係資料。
45点（P00107）

◎前橋市・岸昌男家文書

近世く近現代の典籍および地図（明治後期、昭和15年伊勢崎町一部）。医学書、本草学・薬学書類が半数以上を占める。
122点（P0307）

◎山田実氏収集文書（第2次）

近世く近現代の送り証文・引取証文、往来手形、奉公人手形、年貢皆済目録など。
43点（P8608）

閲覧室かわら版 ～その1～

◎資料を見る前に

閲覧室では、当館収蔵の資料を直接手に取ってご覧いただくことができます。最初に、利用券発行手続き（身分証明書をご用意ください。）をしてから、文書閲覧手続き（閲覧票記入）となります。閲覧の際は、大切な資料を汚損、破損することのないよう、次の点に注意してご利用ください。

- ・貴重品以外の荷物は閲覧者用ロッカーに入れる
- ・手をきれいに洗ってから閲覧する
- ・筆記具は必ず鉛筆を使用する
- ・室内で飲食はしない

貴重な資料を永く後世に残すために、資料の扱いは丁寧にしていただきますよう、みなさまのご協力をよろしくお願いたします。



文書館2階の閲覧室入口
(右側は閲覧者用ロッカー)

平成28年度テーマ展示2
「前橋の城と城下町」の開催

平成28年10月22日(土)から平成29年1月29日(日)まで、開催します。テーマ展示は、当館収蔵史料などの中からテーマに基づき史料を選び展示するものです。今回は、「前橋の城と城下町」をテーマに開催します。江戸時代の前橋城、前橋町、その周辺村々に関する古文書や大型絵図を展示し、皆様に近世前橋の城と城下町などに関する知識・関心をよりいっそう深めていただければと思います。

内容は、①天和～明和期の絵図、②寛政～天保期の文書と絵図、③嘉永～慶応期の文書と絵図、④明治初期の文書と絵図となっています。主な展示物として、①には国重文「前橋旧図」（前橋城、家臣屋敷、寺院、他、寛延2年力）、「前橋城絵図」（龍海院寄託、元禄期力）など、②には前橋市重文「上野国群馬郡前橋町絵図（主体部）」（文政4年）、「上野国勢多郡前橋町絵図（貼り合わせ部）」（明治5年）、町年寄「御用雑日記」（安政3年・松井家旧蔵文書）など、③には「東通り天川村御絵図」（安政6年）、「元治元年孟夏写 再築前橋城絵図」など、④には「錦絵」（伊太利人前橋城下誘引到着の図）（明治2年）、町年寄「御用雑日記」

（明治4年・勝山敏子家文書）などの複製パネルを展示します。

特に、「前橋旧図」は、藩主松平大和守家が武州川越へ移城する以前の前橋城と城下町の姿を一体に描いた貴重な絵図です。西から利根川（紺色）、前橋城本丸、二の丸、三の丸（白壁、緑色の土塁、紺色の水堀等）、その東・南・北側に家臣屋敷、城門、塀などが描かれた各曲輪（くるわ、ピンク色）、その東、北側に城下町（外曲輪、ウグイス色）と寺院、神社（朱色）などが色鮮やかに描かれています。



前橋旧図（部分）
（群馬県行政文書、A0181AMM
No.1277、部分）縦278・6cm×
横182・0cm*マイクロフィルム閲覧

今後の行事予定

★開館記念日行事「前橋の城と城下町」

●原本史料展、元禄上野国絵図フロアアマツト展示（一般初公開）、展示解説会
平成28年10月29日(土)・30日(日)
9時～16時30分

※解説会（両日とも）①11時②13時③15時

★展示

●テーマ展示2「前橋の城と城下町」
平成28年10月22日(土)～平成29年1月29日(日)

●新規公開文書展

平成29年3月4日(土)～5月末
※展示室では、常設展「文書館の仕事」も行っていきます。

★講座

●第2回ぐんま史料講座
平成28年12月3日(土) 13時30分～15時30分
「前橋城の破却から再築へ」

講師：北村厚介氏（八王子市史編纂

ん室近世史部会専門調査員）

※申込期間は平成28年11月1日(火)～15日(火) **必着** ※詳細は文書館

HPをご覧ください

発行／群馬県立文書館
<http://www.archives.pref.gunma.jp>
題字／岡庭征人書